

教育関係各種団体からの 意見について

久喜市教育委員会

目 次

久喜市私立幼稚園協会	1
久喜市社会教育委員	2
文化団体連合会	18
久喜市PTA連合会	20
久喜市立図書館運営審議会	22
久喜市スポーツ協会	24
久喜市スポーツ推進審議会	25
久喜市レクリエーション協会	37
文化財保護審議会委員	38
久喜市公民館連絡協議会	42

※各意見等については、いただいたものをそのまま掲載していますが、個人が特定される箇所、明らかに誤字等であると判断できる箇所については、一部修正を加えさせていただいています。

久喜市私立幼稚園協会

＜幼児教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

現在、市内の私立幼稚園は栗橋白百合幼稚園の 1 園です。それ以外の私立幼稚園はすべて認定こども園です。運営は公立幼稚園、保育所も含めて保育課が所管する施設型給付の園になっています。指導官庁は文科省や厚労省、内閣府まちまちです。そこをふまえて、今後の振興基本計画をよろしくお願い致します。

- ・基本的に市内の小中学校の教育は学務課で把握できるが、就学前の幼児教育は園や施設によって子どもの扱い方が異なる。同じ年齢なのに親の就労や子どもの通う園により、保育時間・教育時間・延長保育・預かり保育・疾病や災害時の休園の仕方等方向性がまちまちである。子どもの保育、教育の在り方を一本化してより質の高い教育を施し、小学校へつなげる保育を行なうためには行政の子どもへの考え方が異なってはいけない。子どもを所管する課を是非とも統一してもらいたい。例えば今国が考えている「子ども省」のように・・・
- ・親の就労により教育に対する保護者の考え方に温度差がある。人によるが行事の参加や参観、手紙の内容の受け取り方など精査して、子どもが中心になり最善の利益が子どもにもたらせるような計画が必要。

- 教育と福祉の垣根の撤廃
- 学区内の子どもの人数の把握と必要に応じた施設の適正配置
- 親の就労に関係のない子どもの取り扱い

就学前の保育教育施設の立ち位置が違うことにジレンマがある。

- ・幼稚園―学校教育法で一番に出てくる学校指導者→幼稚園教諭
 - ・保育所―児童福祉施設指導者→保育士
 - ・認定こども園―児童福祉機能を兼ね備えた学校指導者―保育教諭
- 教諭は 0.1.2 歳児の保育は出来ないが、保育上は 3.4.5 歳児の教育が出来る。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

久喜市社会教育委員

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

表記の意見募集を受けましたので、日ごろ感じている点を述べさせていただきます。

日本の「少子化」が、1992 年の国民生活白書の中で、「少子社会の将来、その影響と対応」で提案され、その後、1994 年ごろから高齢化が問題視されて「少子高齢化」の言葉として定着し、騒がれてきたと思います。

当久喜市に置きましても、高齢化が進み、65 歳以上が総人口比で 30%を超えて、出生率も全国平均を下回る 1.3%となっています。総人口も 96 年の 154,000 人をピークに減少を続けています。

こうした中で、「住んで良かった」街づくりを進めていますが、計画作りにはもっと住民参加の意見集約の場を設けるシステムを作るべきだと思います。

年 1 回の市民と市長の対話では、少ないと思います。部長クラスも市民との意見交換会を持つべきだと思います。

教育の場面では、市長が「GIGA スクール」に取り組むことを表明していますが、このシステムが全面完成されますと、地域の住民参加の教育のやり方や家庭内の親の関与が、ほとんど対応できなくなる恐れが出てくると、心配します。

つまり、教育のコンピュータ化についていけない環境が作られるのではないかと思います。私としては、親や地域の大人を教育現場に取り込み、絶えず相互交流を作り上げて考えていくことが大事だと思います。

また、最近の集会所のコミュニティ化についても、住民参加、利用者参加の意見交換会などをやられてないように思いますが、利用する住民の意見を集約し、聞いて対応し、納得した上で実行する姿勢が必要です。

国の行政に置いても、上意下達や忖度が横行し、民意の反映されない行政が行われている状況ですが、市政に置かれましたこうした傾向を「他山の石」として注意してゆく事が大事だと思います。

例えば、従来は成果を上げてきた市民大学や高齢者大学など、合併後の行政の在り方や運営の仕方などもあって、参加者が激減して運営もむつかしくなっています。これらも、現在の住民の意向や参加意識の変化などよく聞いて、形態を情性で運営すべきではないと思います。

また、各種文化団体や自主組織への資金援助なども、改めて「援助基準」を明確にして支援すべきだと思います。自分たちで組織を作り自分たちで楽しむ団体に市税の支援が必要なのか見直すべきです。「なんでも市に、行政に頼む」考えがかなり市民の間にあるように見受けられますが、もっと自分たち、地域の

つながりで解決するつながりを大切にしてゆくべきです。

表記の課題とかけ離れた内容になりましたが、意見として提出します。

<その他教育全般に関する意見>

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

① 青少年が健全に集える居場所作り

青少年が集う場所がありません。家庭・学校のほかに成長しあえる第 3 の場所があったらいいと思います。ロールモデルになる「ヤングリーダー」=勉強を教えてくれたり話し相手になってくれたりする人がいたら理想的だと思います。

② 高齢者大学の名前を変える

長年したしまれてきた「高齢者大学」ですが、今の時代は退職年齢では高齢者とはいえません。年々入学者が減少しているのは、「まだ高齢者ではない」というプライドもあるのではないのでしょうか？

③ 社会教育委員もオンライン対応を考える時期かもしれません

コロナ禍となりここ 2 年久喜市の社会教育は停滞してしまいました。現役世代は Zoom ミーティングなど活用して試行錯誤しながらしなやかにこの時期をやり過ごしました。一方高齢者はコミュニケーションをとることが難しくなり、認知症になる人が増えてしまったという話も聞きます。コロナ禍が一段落したら、パソコンが普及し始めた頃のように、公民館などでオンラインミーティングの講座などを開催し、ネット難民を減らす施策をしたらいかにかと思います。まずは社会教育委員の私達もオンラインミーティングができるように努力しなければいけないと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

基本目標 5:豊かな生き方築く生涯学習の推進

[施策 1]豊かな生き方を築く、多彩な学習機会の提供

【主な取り組み】2 これから未来に向け新たな家庭を築く世代「青年教育」世代が理想を掲げ、夢を持ち、生涯学習を「じぶんごと」として本音で語り、共有を図り、その意見に熟年・壮年・高齢世代が耳を傾けることができる機会創出（サイレントマジョリティ声なき声に耳を傾ける心で聴くことを目指し、市内の保育園・幼稚園の保護者や 22 各小学校の保護者や 11 中学校の保護者で PTA のお力も借りながらも、日常活動の中心的いわゆる「本部役員でない」方々の参加をメインターゲットにし「困った」を言いづらい「助けて」の手を上げられない、上げづらい窮屈さと、孤独を感じているターゲット世代にコミットする地域民生的スキルの向上と、掟オキテ的「地域の敷居」を下げることをねらいとする）

[施策 2]豊かな生き方を築く、保護者の交流機会の提供・支援

【現状と課題】残念ながら子育て中の保護者が悩みを抱えている内容は、真剣であればあるほど、深刻であるならなおさら繰り返すが残念ながら“家庭教育学級”でワイワイするコミュニティグループでは、到底「口に出す」ことはそぐわないし出来るはずもなく周知の事実である。子育て世代の家庭の困窮に対して、家族以外で誰よりも詳しく知っている、知ってしまうのは、保育園や学校の担任であることは間違いない。わかっているのである。本来学習の習熟・成績向上、子どもが未来を切り拓くことのできる学力や人間力を身につけることが学校・教員のしごとと言える。貧困・困窮や家庭の不安定からネグレクトや虐待については ALLJapan 全国民で対処しなければならないが社会福祉の領域と学校教育との棲み分けタテ割を理由に対応が遅れることは許されない。過去の事例の多くのように後悔することがないように、現場教職員、担任の先生の校内の組織としての「相談・連絡・報告」迷い・悩み etc など一瞬でも縛られ、遅れること無きよう「担任の先生の安心駆け込み寺:組織横断心配相談」を福祉課と教育委員会で「共育」しなければ、万が一に・・・間にあわない。

【方向性・主な取組】問題は現場でしか解決できません。残念ながら”家庭教育学級”という言葉霊(ことばの力)の無さに悲しくなります。“家庭”それはクローズされたプライベートで触れられたくない「心の奥底」にある人に知られたくないというネガティブな香りを嗅ぎ分けることも必要である。あまりにも安易に学校教育⇔地域教育⇔・・・カティキョウイク。となったのであろうが・・・。

ここで提案したいのが(×)家庭教育→(○)青年教育と変更し、久喜市生活者のターゲット世代の「おやあつ〜？何ィそれ」を引き出す久喜市行政と教育委員

会の「本気の協働」に期待する。

[施策 3] 豊かな生き方を築く、生涯学習環境の整備・充実

【現状と課題】 お察しするにはものたりない

東京理科大跡地活用の迷走による、生涯学習センター計画の埋葬(イン踏みました)

【施策の方向性】 本来教育学習活用施設限定立法すら外したむなしいハウコウセイ。久喜市内 1、2 を争う老朽 MAX デンジャラスゾーン「しずか館」栗橋駅徒歩 1 分。

[施策 3] 豊かな生き方を築く、生涯学習環境の整備・充実

【主な取組】 空虚でむなしい。

説明責任を求められるのに答える準備をするのが「常識・一般的」と捉える。

[施策 4] 豊かな生き方を築く、公民館活動の充実

【現状と課題】

【施策の方向性】

【主な取組】

ここで問題共有が求められるのが(×)公民館→社会教育法無縁の(○)コミュニティセンター(民間の利益追求商売可)ちなみにご案内のとおり旧久喜エリアに多くの「公民館」があるがアセットマネジメントという子どもや年寄りにわかりづらいカタカナで集約化・機能移転・複合化・転用・譲渡される「適正化」という大ナタが振るわれる。(日本語に訳するならアセット=資産・財産、マネジメント=管理・運用である。)ということが本年 3 月「久喜市公共施設個別施設計画」に記された。運営母体の変更による、事業精査・継続の危機を「豊かな生き方の方法の絞り込み」として軸足を これからは⇒「青年教育啓発・実践・充実」へ物理的シフトされることは「今、待ったなし」急務と言えよう。

[施策 5] 豊かな生き方を築く、図書館サービスの充実

先ご案内のとおり、久喜市 PTA 連合会会員や、市議会議員を含む地域生活者で教育委員会予算によるバスツアー先進地三郷市や県境またぎ千葉県へ見学研修会までおこなった「子ども図書館」計画の行方には理科大跡地の大転換機械喪失により期待された子ども図書館は期待できない。

ここでもアセットマネジメントという子どもや年寄りにわかりづらいカタカナで集約化・機能移転・複合化・転用・譲渡される「適正化」という大ナタが振るわれる。(日本語に訳するならアセット=資産・財産、マネジメント=管理・運用である。)機能移転・複合化である。慣れ親しんだ不断の学びを担保した憩

いの心の安らぎ未就学児から高齢者まで生涯学習のシンボル図書館はこれまでの場所にはないのかもしれない・・・。

[施策 6] 豊かな生き方を築く、市民大学・高齢者大学

少子化・幸齢化 豊かな心ふるさと久喜を目指した 市民「青年教育」大学などにも個人の要望と、社会の要請へのバランスに応じた「新・価・値・創・造」に期待する。

[施策 7] 豊かな生き方を築く、放課後子ども教室の推進

市内 ALL22 が崩れてしまう、実施されない学校アリという自由な選択・多様性も認めながらも創始の精神次世代青年教育共有を意識しながら青年世代の「じぶんごと」につなげる 「楽しく」探究や「できた」の達成感。感動の発信を「ICT 先進地久喜教育委員会」に期待する。

<その他教育全般に関する意見>

○市債で購入された 988 台のエアコン・室外機の稼働率とその管理費と修繕費用・・・。

○栗橋「しずか館」や、鷺宮「上内小学校の 2 棟そびえる巨大校舎の非耐震」が証明する

○これから避けては通れないふるさと久喜に暮らす大人の使命である「学校統廃合。」

前述のアセットマネジメント「久喜市公共施設個別施設計画」(R3-3 月)73 ページ～87 ページにそのあまりにも雑に信じられない不透明やる気が感じられないスローペースで再編が記されている。なんと 4 期 34 年後小学校は現在の 22 校→14 校【8 校減】、中学校現在の 11 校→7 校【4 校減】4 期 34 年かけてようやくと現在の令和 3 年 2021 春日部市の学校再編に相当する程度の進捗計画。

この先の見えない時代に・・・このスピード感。必須となる未来へ学区ブランドデザイン示されたし。

みらいの志民にどうやって、ここふるさと久喜で、豊かな生き方を築く生涯学習に係わったこの志をこれから子どもを産み育てられる青年世代にわたすことができるのであろうか・・・今日も私たちは試されている。

耐震補強された頑強な校舎がそびえるある学校を更地にして学校統廃合を過去のしがらみにとらわれず、ひとつになったはずの久喜市にあたりまえのようにある旧地区 4 市町エリアを越え未来人にお返ししよう。学校はコンクリ

ートから百年の杜ある公園の父本多博士生誕地久喜の学校へ・・・もう、学区審議会に押付け蓋をするやり方は限界と言えよう　あまりにも場当たりの戦略なき受動的看板ダケの未来計画計画すら無き先送り。このままでは、久喜市教育振興基本計画はダメです。あまにも不断の努力が報われない。誤解を恐れず、地域エゴに届せず歩みをはじめてまいりましょう。

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

「コミュニティスクール」は第 2 期振興計画スタートの年、H30 年から全市内で始まりました。したがって基本目標 3・「信頼される学校づくりの推進」の施策 2・「学校・家庭・地域が一体となった教育の推進」に軽く触れられている程度です。さらにそこにはもうその言葉すらなくなった？「学校応援団の充実」という項目もあります。コミュニティスクールに移行して 5 年、さらに市教委が今やみくもに進めようとしている「地域学校協働本部」を考えるなら、第 3 期には両者を 1 つの「施策」として取り上げる必要があると考えます。

私は久喜小の「学校運営協議会委員」を委嘱されています。先日令和 3 年度の県主催「コミュニティスクールフォーラム」がオンラインであり参加しました。講演 2 のうちの 1 人が、ふじみ野市立大井小の校長（女史）でした。C・S マイスターでこの種の故研修会ではおなじみの方です。冒頭『早くから C・S に取り組んだ所には、停滞・飽きがみられる。』と話されびっくりしました。どんな組織体・活動体にも発足一成長一絶頂期一下降一停滞という流れがあります。全国 1 と自称する久喜市の「ゆうゆう」は 17 年目ですが、今完全な停滞期・飽きの時にあります。近い将来市内半数の小学校でしか実施されていないのでは、と危惧しています。C・S は久喜では 6 年、どんな古いところでも 10 年程度でしょう。

しかし停滞・飽きがみられるというのです。C・S 関係の講習会では初めて聞きました。しかしお聞きしながら妙に納得する部分がありました。

久喜市内は太東学園で 6 年、他は 5 年しか経過していません。しかし停滞・飽きがあるのです。（と思います）中学校区ごとの「**学園」です。全く休眠状態にあります。熱心な学校運営協議会のメンバー諸君は、安全見守りや、校内清掃の実働部隊としての活動が中心となっています。「学校を核として、人・地域・街を育てる」継続的な活動にどう取り組んでいくか、五里霧中の中にあります。各学校運営協議会委員は、それぞれの学校愛・地域愛に燃えています。そうした人たちに何らかの働きかけを教育委員会はすべきです。「県で最初に全校が C・S に移行した」なんてのは自慢にもなりません。三鷹の貝ノ瀬先生は「C・S が導入されたことに、教育委員会職員と教員は覚悟と本気を持て」と言われました。一体久喜で C・S 導入に当たり、何人の教育委員会職員と教員が、「覚悟と本気」をもったのでしょうか。新しい振興基本計画に合わせ、教委指導課内に「C・S 推進室」を設置すべきです。室員は複数が望ましいですが、無理なら前記「フォーラム」で、久喜に 1 年遅れて全校が C・S に移行した戸田市の第 1 小が報告した「O・S ディレクター」的な人の依頼もあると思います。この問題に造詣の深い退役教員か民間人、最もこの人と推薦できる人がいないのも寂しい限りです。

今市教委は文科省の方針、県教委の突然の方針転換に伴い、「地域学校協働本部」設置にヤッキになっています。つい先日まで学校応援団があるのでいい、と言っていたのですから土台無理な話です。コーディネーター決定に当たっても多くの混乱が起きています。しかし地域学校協働本部と学校運営協議会は、県と市の方針転換の原因となった H29 年の法改正以降、一体となって活動すべきものとしてあります。教育委員会の適切な指導が望まれます。そうした意味でも先の「C・S 推進室」設置と、今後の教育委員会の「覚悟と本気」を求めるものです。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

久喜市ではコロナ禍においても「リモート授業の推進」など特色のある先進的な取り組みをなされ、放課後子ども教室もすべての小学校で行われているなど、とても素晴らしいことと日ごろ感じています。

さて、今年開催された「2020 東京パラリンピック」において障がいのあるアスリートの活躍を多くの方が TV などで見られたことと思います。そこでは障がいがあっても皆さんを感動させる「パワー」「可能性」を感じられたことと思います。また、パラ競技種目の「ボッチャ」が、すべての年代、障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツで機会があればやってみたいと感じられたとも思います。

そこで、いずれコロナも終息すると思われまますので、学校教育の中でも「ボッチャ」を授業や放課後子ども教室などに組み込み、「親子ボッチャ大会」、「特殊支援学校」「高齢者大学」「福祉施設」との交流大会、毎年 9 月に開催される障がい者スポーツ大会「ふれあいフェスタ」への参加などを通じて、「共生社会」「生涯学習」を考えてみたらいかがでしょうか。

幸い、2014 年から「ふれあいフェスタ」に協力させていただいている久喜市在住の「障がい者スポーツ指導員」が 2020 年に「久喜市健康ボッチャ大会推進委員会」、2021 年に「久喜市ボッチャ協会」を設立、さらに久喜市スポーツ協会に加盟しました。白岡市、加須市、杉戸町などの近隣地域でも教育委員会やスポーツ推進委員が相次いでボッチャに取り組まれています。久喜市は「久喜市ボッチャ協会」などが積極的にボッチャ練習会・大会を推進・開催していますので、「ボッチャ」の指導や運営に協力出来ると思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

- 1 基本計画の1つの指標に、学校教育と社会教育に共通する施策を！
(ex.地域づくり、地域のコミュニティづくりを推進する教育活動)
教育基本法、社会教育法等との関わり
「学校・家庭・地域の連携」は社会教育推進の重要な要素です。地域・学校
協働本部・推進員の活動がどうなるか？
- 2 学校教育と社会教育の連携強化と協働を！
 - ・お互いに全然別物の教育活動と思っている人が多い
 - ・学校は校区内に居住する社会教育委員や社会教育活動団体を十分把握して
おらず、活かしていない
 - ・学校から率先して声をかけて協力依頼、協働体制づくりを
社会教育委員は、関与の仕方が分からない人が多い
⇒(ex.) 学校運営協議会委員や地域学校協働推進員で活躍の場を
- 3 社会教育委員、生涯学習推進会議委員、生涯学習推進部員の連携が下降停
滞！
 - ・お互いに何をしているか分からず、レベルアップが図れない
 - ・委員同士の交流が激減し、面識ない人が多い
- 4 市大高大の入学者減等への対応
 - ① 市大一授業日が平日中心なので、土曜日開催を増やす(定年制延長に備え)
 - ・4地区公開講座の充実
 - ・2年生時の自主運営講座の拡充と行政からの支援
 - ② 高大一短期大学(2年制)を設け、4年制と並行開催
 - ・カリキュラムは4年制とほぼ同じで両者が同時に受講
 - ・短大2年生は自主運営講座を増やす
 - ・短大卒業時に4年制(3年生)への編入学を認める
- 5 生涯学習推進部 生涯学習推進会議の活性化を！
 - ・2大イベントの開催が活動の中心となっており、市全体への生涯学習が希
薄になっている
 - ⇒調査・分析・方策・実践・評価の復活を

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

生涯学習に関する現状の課題について

①ゆうゆうプラザ事業の推進

この事業は、多くのサポーターの多大なる協力に支えられていますが、将来的に、その高齢化と人員確保の問題が緊急の課題であると思います。うまく世代交代ができるよう考えていただきたい

②市民大字・高齢者大字の充実

この事業は長い歴史がありますが、近年、受講者の確保が困難であるとの課題が出ております。カリキュラムが充実していることは良いと思いますが、受講生にとって負担が多いとも考えられます。もう少し、身のたけにあった内容を検討してみてはどうでしょうか。

③生涯学習センターの整備

生涯学習の活動拠点として、センターの設置は大賛成です。ただし、そのコンセプトを明確にしてほしいことと、単なるハコものをつくるだけでなく、利用者が満足できるような施設を構築していただきたいと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

市民大学・高齢者大学につき、気の付いた点を述べます。

- ・市民大学・高齢者大学への入学者減少につき、調査・分析し対策をたてる必要があると考えます。
- ・オンライン学習を取り入れる必要があると考えます。
- ・市民大学・高齢者大学の同時入学を許可したら良いと考えます。

【市民大学】

- ・公開講座を、4 地区で開催する事は良い事だと考えます。

【高齢者大学】

- ・定年が延長されている事から 4 年制でなく 2 年制への検討が必要
- ・体育系・音楽芸能祭等をもっと簡素化して実施する。
- ・講座数を減らし、クラブ活動に重点を置くようにする。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

第2期に掲げた「基本目標5 豊かな生き方を築く生涯学習の推進」は、引き続き同文言で掲げ、施策や主な取組の文言を見直してみてもいいでしょう。充実という文言がかなり使われていますが、第3期では出来るところではもう一歩踏みこんだ具体的な文言があるようでしたらかえてみてはと思います。

市民大学・高齢者大学では取組のところを再構築とし、一部でもオンライン会議などを取り入れてみるのも考えられないでしょうか。

また、2期では「子育てについての意見交換の場の充実」とありますが、具体的にはどんな段取りを考えておられたのでしょうか。

＜その他教育全般に関する意見＞

久喜市の教育は、様々な分野で誇ることの出来る素晴らしい取組をされていますので、市民(ある時は保護者ある時は団体)に、より強くピーアールしてみてもいいでしょう。今でも勿論「広報くき」の中で時々お知らせくださっていますが。

久喜市のホームページを大きく活用したり、学期に一度程度「教育委員会だより」を発行してみたり。出来る範囲で方策を考えてみては

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

市民大学を卒業後、大学院まで修了課程を終えた人達に、「公開講座」の様な名称のものを設けて、市大生には講義を受けてもらえる環境を整えて欲しい。

講座に於いては、1人だけでなく、複数人で行えば飢きる事なく、講義を受けますし、又、登用されるとなれば、学ぶ意欲も変わるでしょう。

入学する学生減少の理由として、市民大学卒業後の門戸が開かれないまま。又、講義内容の充実化を測る事を優先順位に上げて欲しい。

公募で講演者をつのるとか、大学院修了前に講義が出来るかの是否を問えば、人を捜す事もなくなると思われます。

ぜひ間口を広げたアイディアで採用して欲しいものです。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

これからの社会教育・生涯学習のキーワード:人生 100 年時代・ボランティア・地域貢献・人口減少・高齢化・地域コミュニティの弱体

○生涯学び活躍できる環境を整える(市民大学の充実・高齢者大学の拡充・市民サークルの活性化・・・)

・市民大学は ICT で学べる制度や講師のコマを録画して、いつでも学べる工夫

・高齢者大学は菖蒲校(菖蒲コミセンの活用・・・)栗橋校(栗橋総合支所の活用・・・)などでの開校はどうか。

○働きながら学べる久喜の生涯学習

・人材バンクに登録されている方々の紹介ビデオや市民サークル活動紹介ビデオを作成し、学びの選択肢を増やす・・・

○地域の活性化に貢献できる人材の育成

○公民館・図書館・郷土資料館を活用した学びの充実

○子ども大学の発展

○ふるさと久喜が大好きになるためのボランティア活動

○放課後子ども教室の充実(市費予算でボランティアへの対応・・・)

＜その他教育全般に関する意見＞

○市内小中学校の施設設備の充実(校舎等の改修工事にもう少しスピード感を)

○文化の香る街にするための「久喜市立美術館(よろこびの街ミュージアム)」の建設

○スポーツ施設の検討(プロスポーツをよべる陸上競技場・スタジアム等)

○市民スポーツへのアプローチ(例えば健康のためのラジオ体操を市内各所の公園で実施やウォーキングコースの整備等)

*久喜市の今まで取り組んできた「未来をひらく心豊かな久喜の人づくり」の人づくりは久喜の大事にしてきたことなので、「人づくり」の施策は拡充してください。

文化団体連合会

＜文化・芸術に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

文連に対する支援をどの程度迄していただけるのでしょうか。現在、高齢化になり団体数が減ってしまっています。どのようにしたら増やしていけるかアドバイスがほしいです。

団体の発表の場の有り方

＜その他教育全般に関する意見＞

今学校運営委員をやらせていただいておりますので現在支援していただいております色々な支援をこのまま続けてほしいとのことです。

＜文化・芸術に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

日本人のよい所、素晴らしいところなど、海外の人があこがれるよき文化、思いやりの心、それはやはり、人間教育が必要であろうと思います。60歳、65歳で定年退職し、それからの人生は長いので、その人生の中でもう一度学び直して、色々な形で社会参加する人生のあり方がこれから問われるのではないのでしょうか。

その時、社会参加の為の学び直しとして文化活動はうってつけだと思います。

人生百年時代を迎え、生きる意味や人生の目的は何かを学び直す上で、文化活動は大きな可能性を秘めていると思います。

久喜市文連も、今19団体あります。市政のお力をお借りして、たとえば町内会など…一般の高齢者に向けて参加者をつのり、今まで培った芸術文化を各団体が発信できる場所づくりをして頂ければと思います。

又、少子化がこれからすすみますので、今迄のマス形教育でなく、もっと一人一人の子供の人間力を上げ、今後は日本の素晴らしさを発信出来る日本人が輩出されねばと思います。

それには、広い意味での総合的人間力も身につけなければならないと思います。

文化団体を利用して頂き「喜びや楽しみ」を願わない人はいないと思いますので、文化や芸術に触れることを大切にする教育を目指して頂けたら幸いです。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

久喜市 P T A 連合会

＜学校教育・社会科教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

- ・学校の校庭にあった遊具(ブランコ)が古くなり撤去されたままなので、子どもたちのために遊具を増やしてほしい。
- ・中学校の生徒たちが下校時、冬はまっくらなので大通りを中心に街灯を増やしてほしい。

という意見があがりました。ご検討の程よろしくお願い致します。

＜その他教育全般に関する意見＞

久喜市は近隣自治体と比べても ICT 化も積極的に進めて下さっているし、教育に力を入れてくださっており心強いです。今後ともよろしくお願い致します。

<学校教育・社会科教育に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見>

分散登校の際に、対面授業に平行してオンライン授業も同時開催されていますが、授業内容が分かりづらかったり、質問しづらかったりといったことも聞きました。先生方もまだまだ不慣れだとは思いますが、今後、教育の場でも、リモート環境が改善されていくことが望まれます。

コロナウイルスにより休校やオンライン授業等、教育計画に予期せぬ変化が発生したと思います。学校での勉強や運動の不足分を各家庭で補える場合とそうでない場合でも、学習レベルに差が出てしまったり、子どもたちのモチベーションにも差が出ていることが懸念されます。

<その他教育全般に関する意見>

記載なし

久喜市立図書館運営審議会

＜社会教育（生涯学習）に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

職員、学識経験者、諸氏が基本計画に基づいた方針の実行に向け取り組み全般の向上にきめ細かに配慮されていらっしゃるって、私も一歩でも近づける様に努めたいです。長期にわたりコロナ禍の中急速にデジタル化が進み、リモートだ、オンラインで、A I をと理解し活用出来るようになるのに一苦労です。各自がうまくこの波にのり新しい時代へと移って行くのだと思います。取り残されないよう機会があれば生きがいさがしをして行きたいです。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜社会教育（生涯学習）に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

本県の人口が間もなく減少に転じ、全国で最も早いスピードで後期高齢者が増加すると見込まれている。人生100年時代もますます現実味を帯びてくる。

また、近い将来、DX（デジタルトランスフォーメーション）などが進み、社会の仕組みが大きく変革するかもしれない。

このような中で、地域社会がどのように変わっていくのか。その変化に伴い、市民の生涯学習や図書館、公民館等の社会教育施設に対するニーズがどのように変化するのか。社会教育施設はどのような役割を果たすべきなのか。

いずれも簡単に答えは出そうにはありませんが、検討を進めていく必要があると考えます。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

久喜市スポーツ協会

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

「健幸・スポーツ都市久喜」をめざして

施策1 スポーツ・レクリエーション施設の充実

- ①スポーツ施設の競技施設建設については、その競技を行う為のルール・規格にあった広さと安全で必要な設備の配置を検討する。
- ②参加する選手及び関係役員等の駐車場の確保を検討する。
- ③新たなスポーツの導入(オリンピック等で人気を呼んだスポーツ)例、「ボッチャ」と「スケートボード」及びその施設建設

現状(1) 総合運動公園などは敷地の広さは十分有りますが、施設としては比べると劣るのではないかと思います。久喜市には用地は確保されているので、あとは建設のみです。近隣(宮代・白岡等)では陸上競技場・野球場・周回ランニング走路・プール等が駐車場を含めて一か所にまとまって建設されている。近年は三郷市に建設された陸上競技場なども参考にして検討する。

現状(2) 栗橋地区で行われる運動会施行については参加される人たちが町中から離れた南栗橋の会場へは車利用が必然的に強いられるので役員の方は駐車場確保に苦労している、それを理由に不参加の町会も増えている。

施策2 スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実

- ・従来の取り組み通り
- ・スポーツ団体の大会・教室等を開催する場合、一般の市民が参加可能の場合は広報等にて情報を流す。

施策3 スポーツ・レクリエーション活動を通じた市民交流の促進

- ・従来の取り組み通り

施策4 スポーツ・レクリエーション団体の育成・支援

- ・従来の取り組み通り
- ・新たなスポーツの導入

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

久喜市スポーツ推進審議会

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

本市における「令和 2 年度の運動・スポーツに関する市民アンケート調査結果」等から見えてくる「する」「みる」「ささえる」における現状の課題としては、以下の点が挙げられます。

○10～50 代における運動・スポーツの実施率が低く、特に 20 代が低い状況である。

○この 1 年間に運動・スポーツを実施しなかった理由の上位が、「機会がない、時間がない、年をとった、好きでない、体が弱い」となっている

○未就学児の運動・スポーツの実施率が大きく低下している

○「小学生の約 90%が体を動かすことが好き」から「中学生において、運動が好きであるが約 70%」と大幅に低下している

○各団体からスポーツ振興で力を入れるべきこととして、「活動場所の確保、施設の整備、クラブやサークルの育成、大会や教室の開催、企業との連携、多様なプログラムの開発、情報の発信・アクセス等の環境整備、指導者・ボランティアの育成、アスリートとのふれあい体験・観るスポーツ体験の充実」などの声が寄せられている。

これらの課題をはじめ、多くの課題を直ぐに改善していくことはとても難しいことですが、「する」「みる」「ささえる」の各観点においての「基本的な考え方」と「施策例」について記してみます。

◆「基本的な考え方」として、運動・スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことが、「各市民の『喜び』となる、『喜び』につながる、『喜び』に結びついていく」とする捉え方で施策を見直す、提案する、実施する、評価することにしてはと考えます。

幼児から高齢者、障がいのある方、多様な方々にとって、運動・スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことが各自の『喜び』となるものにしていく考え方は、そのためには、「ユニバーサルデザインでのプランづくり」をしていくことではないかと思えます。「ユニバーサルデザイン」の視点で運動・スポーツを「する」「みる」「ささえる」に関する各プログラム(各家庭、保育園、幼稚園、小・中学校等、運動施設・公園・ランニング・サイクルロード・河川敷、公民館等の公共施設、企業など)、推進団体(NPO 法人等)の創設・各スポーツ関係団体の取組、サポーター・ボランティアの登録・育成、ICT を活用した情報の発信・

登録、施設・用具等の見直し、提案、実施、評価が重要だと思います。

◆「施策」の一例として考えてみたことは、「健幸づくりポイント制度づくり」です。市当局はもとより、商工会、各関係団体の皆様に「健幸づくり」の趣旨をご理解いただき、協力、協賛、連携のもと、ICTを活用し、スマホ、PC、カードなどを使い、

「①運動(〇〇教室、レクリエーション、町会や企業、学校での運動等を含め)・スポーツをする

②各スポーツ大会・行事を各会場で観る、ICTを活用してみる

③各スポーツ大会・行事でのサポート、ボランティア活動(各スポーツ関係団体の役員・係りとしての活動、事前・当日、事後の活動等も含む)をしてささえる」に参加、観戦・観賞、支援した場合に「健幸づくりポイント」が付与され、また、①と③についてはポイント数を多く付与される制度です。そして、一定以上のポイント数になったときは、例えば、公共施設の利用料金、市内の協賛店・企業での支払い代金などに利用できる「喜びのあるしくみ」としていく。

各市民一人一人の心身の健康づくり、家族・仲間・近所・地域などとの絆づくり、協働・共生の社会づくりなどにも結びつき、「豊かで健幸な生活が営める制度」となればと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

スポーツの多様化は進んできたと思うが、まだまだ、スポーツは特別なものといった意識があると思います。

私の子供の頃には、ラジオ体操を地域の人達と毎朝行っていました。こうした取組みはとても大切であったと感じています。

職域や地域、チームなどでも、続けてできる物はあった方が良いと思います。

地域行事、家族での取組みなど、オンラインも使いながらできると良いでしょう。

特に、働き出した若い人達や、子育て世代へのアプローチが大切だと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

答えとして適切かどうか分かりませんが、「生涯現役」という考え方を持ってもらうよう、教育していくことは大切だと思います。

学生時代、働く時代、高齢、退職時代を分けるのではなく、生涯学び、何か働く(社会貢献)する意識を持つことが、健康を大切にすることにつながり、社会としても、医療福祉費の削減にもつながるのではないかと思います。

これらは子どもの時から教えていく必要があると考えます。

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

久喜市ホームページ掲載団体一覧に特定非営利活動法人やスポーツに係る団体が閲覧できます。しかし、検索に若干の手間がかかると思われます。ホームページでわかりやすく閲覧できる工夫がされるとよいと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

現在、子供たちの体力低下や若者のスポーツ離れが進んでいます。あらゆる年代の人が「する」「みる」「支える」スポーツに関わってもらうことが大切です。そのために市でメインスポーツを決め、推進することも一つの方法だと考えます。市には川内選手がいるので「マラソンの街久喜市」などと銘打ち、コースの整備をし、教室を開いたりと大々的にアピールをしたり、久喜校のバスケットボール部が強いのであれば、地域の小中学校との交流、練習の場をもうけ、技術と楽しさを強化指導していくなど一連でできるのかなと思います。

若者の対応としまして、我が家のことですが、私がバレーボールをしている姿をみて、子供も小学校で始めました。今大学生になり、同じチームで練習しています。子が親になり、またその子供がバレーボールを始めたら本当に喜ばしいことです。若者は、高校を卒業を機にスポーツから離れてしまうことが多いです。それを食い止めるべく、若者が気軽に参加できる大会を開いたり、久喜市アリーナのトレーニング室の利用など SNS でより発信するなど SNS を駆使して訴え、スポーツ離れを止めなければならないと思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

・「いつでも・どこでも・だれでも、いつまでもスポーツを生涯スポーツ推進のまち・久喜市」

現状では、成人の週 1 回のスポーツ実施率が低いので、これを上げたい。そしてできれば高齢者になる前に運動習慣をつけてもらいたい。できない要因として、やる時間が無い・平日は×・天候(雨・暑過ぎる・寒過ぎる等)場所かない等がある。そこでいつでも、どこでも・だれでもできる⇒すき間時間を使ってやる運動を広める。

「日常の何気ない身体活動」を運動ととらえてもらう。

・発信の仕方

①市民ひとりひとりに顔の見える方法で伝える。今やっている「はつらつ運動教室」での 1 コマに加える。市民→市民に伝え広げる

②上記よりは大規模な市民向けの講習会を開く。(スポーツ推進委員などが講師となり教える)

③SNS で広める。広報「くき」にシリーズで載せる。 等

(神奈川県教育委員会教育局生涯学習部スポーツ課が推進している「3033 運動」というものがある。1 日 30 分・週 3 回・3 ケ月間、継続して運動やスポーツを行う。(主にストレッチ運動))

すき間時間を使った身体活動を広めて、久喜市なりの「3033 運動」のようなキャッチフレーズを作り、市民がそれを合言葉にやっけていき、健康長寿を目指す。(脚動・バランスカ・柔軟性・握力等を取り入れたストレッチ体操)

・今後、市をあげて取り組んでいきたいスポーツ(講習会・イベント等)

・ウォーキング、ランニング、体操(ラジオ体操・ストレッチ体操)

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

- ・小、中学校の人口減少によるスポーツ発展の縮小化。
- ・スポーツ年齢の高齢化によるリタイヤ化。対策として、見るスポーツの推進、健康ウォーク等の推進、家庭で出来るスポーツの発掘等

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

会員の減少、高齢化で、チームの維持が難しい現状の中、高齢者が特に興味ある、健康体力づくりや友人、仲間との交流の場など、情報発信などが必要か
と思います。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

教育振興基本計画ではすばらしい計画がたてられています。しからこれだけの項目を実施するとなるとハードルが高く、財政的、人材的にも厳しいと考えます。

そこで 5 年間の期間の中で、優先順位を決め、選択と集中で市民にも意図が伝わり、行動し実施できることからやることが大事かと考えます。

＜その他教育全般に関する意見＞

中学生、高校生は、それぞれ 3 年生の春又は夏までにクラブを引退することが多いかと思います。そのあとの生活リズムが乱れたり、又切替えが出来ない人も多いと思います。その様な人を体がなまらない程度に、そして身体活動することで、心体のバランス、脳へのいい影響がありますので、活動の場をつくってあげ、親しんでいたスポーツ、運動でなくても他のスポーツを経験することも基礎体力維持にもつながるし、心の健康も大事なので、そういう機会をつくってあげたいし、自分もかかわりたいと思います。

<スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見>

- ・スポーツを経験したことのある人は、その面白さ、感動、チームワークの大切さ、自分自身の努力の重要性を覚え、どこかのタイミングでする」あるいは「見る」「支える」ことを推進します。ですからスポーツを体験する機会、場所を子供～大人に提供して行って欲しいです。(学校へスポーツカレッジなど)
- ・上記も含めて財政面、そしてオール久喜という意識、地元貢献、地元あつての企業活動ということからスポーツを応援(久喜市のスポーツ活動を支援)する企業には市の認証マークを与え、その代わり寄附をもらうなど民間企業との連携、有効活用を提案します。

<その他教育全般に関する意見>

コミュニケーションの苦手な人、障がい者など様々な人達が、ごく普通に、自然に、日々を満足して暮らしていけるような社会にするため、相手のことを考える、相手の気持ちを知ることができる、色々な人がいることなどを体験できるような教育の場(ボランティア、施設訪問、会社見学など)がもっと欲しいかなと考えます。

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

来年４月からの第２期スポーツ推進計画策定の過程にあります。ここに現状の課題、今後取り組むべき施策等をしっかり盛り込んでおく必要があります。現状はスポ協―レク協―スポ少といった大衆団体は極めて深刻な状況にあります。少子化・高齢化・社会状況の変化(コロナを含む)がその因です。

スポ協・レク協の活動家の高齢化、逆にスポ少の少子化からくる数の不足は、活動の停滞状況を生んでいます。一方組織に関わらない市民のスポーツ活動はそれなりの状況です。ウォーキングに親しむ、トレーニングジムに通う市民等結構見られます。組織に縛られない、自分の好みの方法で、空いている時間に、というのが今風なのかもしれません。したがって新しい推進計画には市民スポーツ活動健康づくりの推進施策を盛り込む必要があります。

１つは日常的に健康体力づくり運動に取り組む環境の整備です。これには「健康スポーツ都市宣言」が大きな後ろ盾になります。首長部局・市全体のお墨付きをもらっているのです。「久喜市社協」内にある「福祉委員」的な組織、仮称「健康体力増進委員」を各町内会内に委嘱するのです。ごく簡単な研修会で、この人たちに各地域での「ラヂオ体操会」とか、「ウォーキング会」といったものを運営していただくのです。しかしこれはなかなか大変です。新たな事業と組織を起こすわけで、事務局となる所の相当な負担を伴います。

そこで教育委員会だけ出来るものとして、今衰退の一途をたどる部活動への外部指導者派遣制度と直結する、「スポーツリーダーバンク」的なものは、ぜひ創設していただきたいと考えます。学校体育はやはり日本の、地域のスポーツ振興に欠かせないものですから。

最後に一つ、先日スポーツ振興課より、財政当局より費用削減の要望あり、種々検討しているが「綱引大会」中止を検討したい(中)との電話を頂きびっくりしました。費用は４０万との事です。この大会は２０００人の参加を見る我が国最大の大会です。あの子供たちの輝きと熱気とを一度でも見ていれば、こんな考えなど浮かばないはずです。

＜その他教育全般に関する意見＞

私は社会教育（生涯学習）という摩訶不思議なものに、ずーっと付き合っこの歳まで来ました。その私にどうしてもわからないものがあります。「久喜市公共施設個別施設計画」でいう「公民館」の全廃です。さらにショックだったのは、それを教育委員会が認めたことです。第一「教育振興基本計画」でも、目標５・「豊かな生き方を築く生涯学習の推進」の施策４で公民館の重要性を謳い続けてきたではありませんか。少しでも金を減らす事と得る事しか考えない現市政に、教育とか、文化とか、福祉とかを大切にすることが、真の自治(政

治)なのだということを教えねばなりません。教育委員会が公民館廃止に反対の立場に復帰することを強く望みます。現状でどうしても無理だというならば、せめて新しい施設で「学びの事業」を少しでも多く残すよう頑張ってください。市民に「学び」を提供し、「学んだ成果を地域に活かす」ことを教育委員会は推し進めてきたのではないのですか。学びのないところに自治はなく、自治のないところに発展はありません。

久喜市レクリエーション協会

＜スポーツに関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

市民アンケート等によると

- 1、身体を動かしたい
- 2、身近な所でやりたい
- 3、いつでも、どこでも気軽にできる場所を、等の意欲はある。

(1) 施設の整備を

- ①指定管理者制度の導入の中でソフトの充実を要請して欲しい(各種団体を取り込んで！)
 - ・施設とスポーツ団体との協同事業の計画
 - ・地域の各種団体と協力してスポーツ体験事業を数多く計画していく
- ②ウオーキング・ジョッキング道路の整備
 - ・久喜菖蒲公園の周回コースを参考にして、各地区(身近な所)に整備して欲しい。「健幸スポーツ都市」らしく、コースを整備して、多くの市民が楽しめるようにしたい。

(2) 学校の開放(体育館を中心に空き教室も)

- ①各スポーツ・レク団体のホームグラウンド化(活動の拠点づくり)
市民がスポーツ・レクの体験をする機会を提供していく
- ②学校は、身近な地域の拠点であり、地域住民の交流の場であります。空き教室を地域団体・住民の交流の場(サロン化したい)

(3) 広報の充実(いろいろな機会を通してPRして！)

- ①各種団体の活動をもっとPRして欲しい。
- ②「コバトン健康マイレージ」もPRがない
- ③「健幸スポーツ都市」のPRも足りない―都方のPR」とコースの紹介をしたらどうか(市内にあるウオーキングコースを)

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

文化財保護審議会委員

＜文化財に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

積極的に文化財保護活動の見える化を考えました。

施策3 地域文化資源の発掘

- 3 市史編さんの検討 事業の検討だけではなく、現状と課題にある「魅力ある新たな発見」に努め、合併後の「新久喜市史」の編纂に向けて準備を進めるなどの積極性があってもいいと思います。

施策4 文化財の保存・継承

- 2 埋蔵文化財包蔵地の適切保存 で（2）で試掘などの発掘調査が行われた場合、説明会、または見学会を開催します等の文言を入れてもいいのではないか。

施策5 文化財の活用

- 1 指定文化財に関する情報発信「講座等」に「講座、見学会等」と、インドアの座学だけではないアウトドアの活動も考えているという姿勢が欲しい。

施策6 郷土資料館の充実

主な取組に（4）として、博学連携に努め、市内小学校に出前授業を行います。など必要ではないでしょうか。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜文化財に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

・文化財に関する情報発信については、これまで取り組んできた市民に対する様々な活動がもちろん重要であることは言うまでもないが、web 公開による情報発信をさらに強化し、久喜市の文化財や自然・歴史・民俗などに関心を持つ国内外の人々に対して、もっと積極的にアピールしていくことも必要なのではないだろうか。文化財所有者との関係などの問題もあるかと思われるが、画像データや目録情報データのさらなる公開についても検討すべきであろう。

市所有の文化財については、比較的取り組みやすいのではないかと。とくに昨年からコロナ禍の中では、web 公開された情報に対する需要が急激に高まったと言われている。今後、市としても適切な施策が求められていくように思われるので、これに必要な予算配分についてもぜひ具体的に検討して頂きたい。

・現在の限られた人員と予算の中では、合併後における指定文化財の現状把握とその保護、あるいは今後新たに保護していくべき文化財の所在調査とその保護に向けた活動だけでも手一杯であることは容易に想像されるが、一方で何らかのテーマ性・計画性を持った活動も必要になってくるのではないかと思われる。一例を挙げれば、現在、江戸時代に存在した「久喜藩」（藩主は米津氏、石高は1万石余）に関するいくつかの遺物について、文化財指定を視野に入れた調査が検討されているようである。例えば、こうした「久喜藩」などを一つのテーマに掲げて計画的な調査を実施し、その成果を受けて、文化財への指定とその保護対策、市民への教育、さらには国内外への情報発信へと繋げていくようなことも検討してみてもは如何であろうか。

市側ではあまり意識していない魅力を、むしろ市外の人々の方がよく知っているという事例も少なくない。もちろん、これは「久喜藩」に限るものではなく、郷土資料館などによるこれまでの活動の中から提案できるものと思われる。こうした活動に関しても、必要な予算配分についてはぜひ具体的に検討して頂ければ有り難い。

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし

＜文化財に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

基本的には第二期で策定された施策の継続と発展で良いと思います。

- ・有形、無形にかかわらず、今ある文化財の現状確認をこまめに行い、保護活動を推進する。
- ・市民への情報発信の継続。
- ・資料館等のさらなる整備、またはよりアクセスしやすい展示施設等の新設。
- ・市のホームページの文化財のリストだけでなく、より幅広い年代が興味を持って見に来られるような、画像、動画等の見られる紹介サイトかアーカイブなどの制作。
- ・現段階では文化財とはならないまでも、未来に残していくべき芸術文化物に対しても、資料作成などを進めておき、基本的なメンテナンス等の情報を周知させる。

＜その他教育全般に関する意見＞

- ・歴史文化、芸術文化に対し、食わず嫌いを防ぎ興味を持つ人が増えるような、学校教育と生涯学習の推進。
(例) 芸術鑑賞の手引となる企画、鑑賞する方法を教えたり、制作方法を教える講座など
- ・伝統文化、工芸、美術等、芸術文化全般に対して、基礎的な知識を広める。

＜文化財に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

今後、「歴史文化基本構想」の策定を検討するということであるが、「文化財保存活用地域計画」についても、視野に入れておく必要があるか。

＜その他教育全般に関する意見＞

特になし

久喜市公民館連絡協議会

＜生涯学習の推進に関する現状の課題や今後取り組むべき施策などの意見＞

公民館事業について、今回は新型コロナの問題もあり、事業も計画通り進んでおりません。このような時、公民館を通して地域の人達と講座などで学習する機会がないという事は残念であるとあらためて感じました。

今後高齢化が進み、一人暮らしの人も増え地域で集い学習する場があれば、心身すこやかにすごせるのではないのでしょうか?市民体育祭では老若男女、障がいのある方も参加してくださり思いやりのある場面もみられました。高齢者や障がいのある方が、健常者と同じ環境で公民館を通じて積極的に社会参加できるようになればと思います。

青葉公民館は 2 階に行くには階段しかありません。公民館内のバリアフリー化ができればと思います(早急には無理だと思いますが…)

講座の先生も個人的に探してお願いしておりますがリストがあれば参考にさせていただければと思っております。講座の応募方法も電話で申し込みが可能になり、助かるという声も多数聞かれます。(特に年配の方ですが)

＜その他教育全般に関する意見＞

記載なし